

採卵鶏(赤玉鶏)の鶏種別能力比較

研究のねらい

採卵鶏の赤玉鶏(ピンク卵含む)についても、白玉鶏と同様に100週齢までの調査を平成26～30年に5回実施し、長期間飼育した場合の鶏種別能力の明らかにしました。



写真 赤玉鶏の試験実施状況

技術の特徴

- 1 赤玉鶏の100週齢ヘンハウス産卵個数で500個に到達した鶏種は1鶏種にとどまり、白玉鶏に比較し産卵個数は少ない。また、鶏種による差は比較的少ないと思われ(図)。
- 2 赤玉鶏を長期間飼育する場合のポイントも白玉鶏と同様に、産卵の負担軽減のため卵重が過大にならないようにして生存率を高めるためには、栄養管理や舎内温度のコントロールが重要になります。
- 3 赤玉鶏は、白玉鶏に比較し、高温に弱いいため、夏期の産卵成績の低下が顕著で、この差が白玉鶏と産卵個数の差となって

います。そこで、効果的な防暑対策がとれるかどうか、長期飼育における重要なポイントとなります。

- 4 赤玉鶏は白玉鶏に比較し、体重が重く一回り大きいのが特徴で、体重に対する体表面積が狭くなるため、夏の暑さに弱いと考えられます。また、冬の寒さで過食となり体重や卵重が過大となり生産性に悪影響を及ぼす等、環境の影響を受けやすい鶏種です。

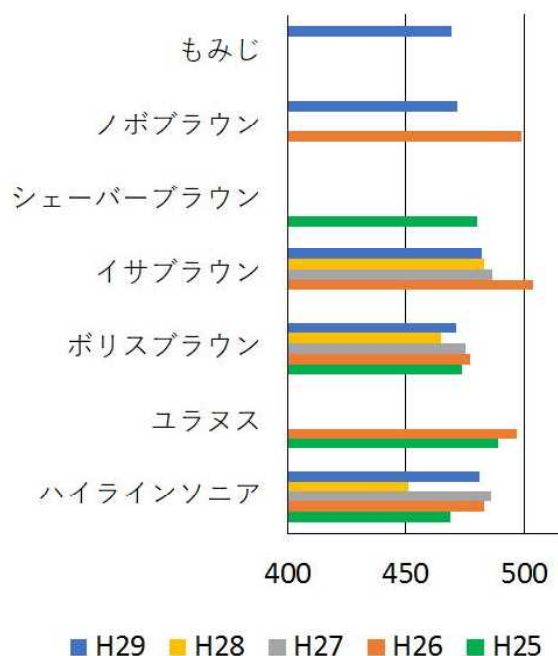


図 100週齢のヘンハウス産卵個数

今後の取り組み

白玉鶏と同様に100週齢までの調査を継続し、情報発信を行います。

また、赤玉鶏は舎内温度等の環境要因の影響を受けやすく、特に防暑対策が重要なので、猛暑日が多い群馬の夏でも、十分に能力を引き出せる飼養管理技術も開発します。

(執筆者：後藤 美津夫)

連絡先：畜産試験場 養鶏係 (電話027-288-2222)